

どんなまちを目指すの？



将来像

将来像は、大野市が目指す10年後のまちの姿です。

大野市のこれからのまちづくりには、市民の力や地域の力、各種団体や企業の力、行政の力を合わせ、共に考え、行動していくことが求められています。総合計画における将来像は、まちづくりにかかわるすべての人や団体などにとって、目指すべき姿となります。

市民の誰もが、大野市に住んで良かったと実感できるように、また、未来の子どもたちにふるさとを引き継げるように、将来像を次のように定めます。

ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち

次のような10年後のまちの姿を目指します。

ひかり
かがやき

人、歴史、文化、伝統、自然環境、食などは大野市が全国に誇ることができる魅力です。魅力のある素材のすべてが磨かれています。

たくましく

おおのびと
大野人は、純朴さの中にも幕末の大野丸に象徴される進取の気象^(注)と雪国特有の粘り強さを併せ持っています。大野人の良さを保ち続けるとともに、大野の魅力を発揮する人と産業がたくましく育っています。

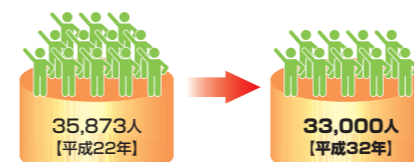
心ふれあう

子どもから高齢者まで、人と人との触れ合いや共に語り合うことを大切に、互いに学び、働き、憩うことで、心が満ちてゆとりがあります。人情味があふれるもてなしの心で、訪れる人とも交流が深まっています。

注：進取の気象……大野市民憲章で使われている大野市の市民性を表す言葉です。

将来の見通し

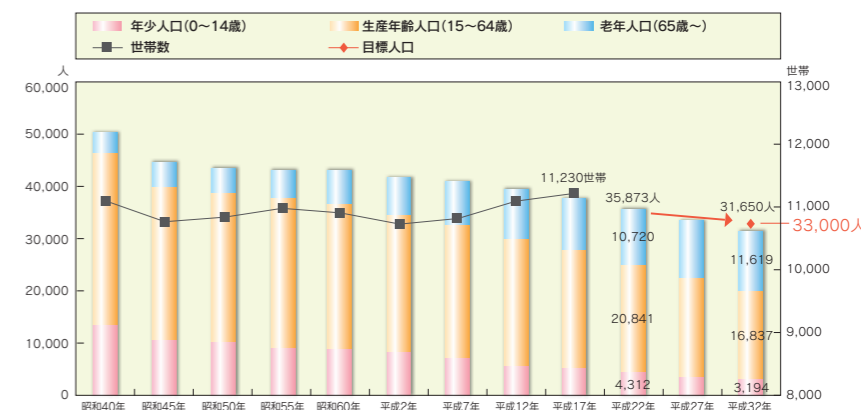
1 目標人口 33,000人



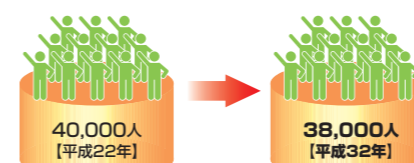
大野市の平成32年の人口は、平成22年に比べて約4,000人減少し、31,650人になると予測されていますが、政策的要因として、中部縦貫自動車道の一部供用開始や、国道158号、保健・医療・福祉サービス拠点施設などの社会基盤の整備が進んだことなどによる若者と元気な高齢者の人口増を見込み、目標人口を33,000人と設定します。

人口・世帯数の推移と見通し

(資料:国勢調査。平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計)



2 目標ふれあい交流人口 38,000人



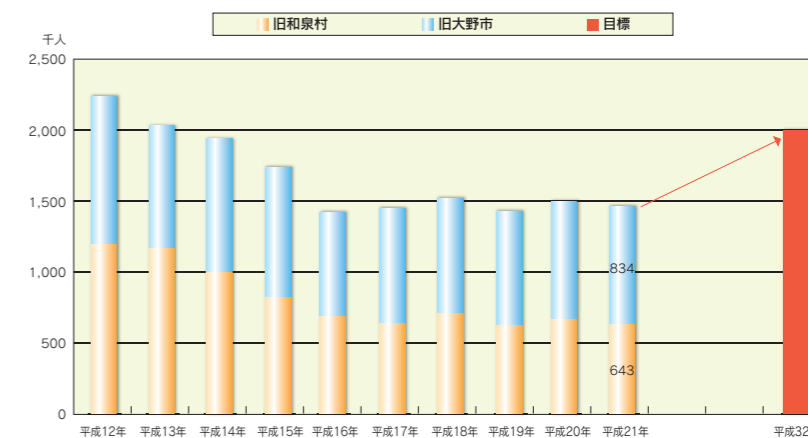
大野市独自の見通しとして、人口に1日当たりの大野市外からの来訪者数を加えた「ふれあい交流人口」を取り入れます。

地域資源を磨きつつ有機的に連携させ、中部縦貫自動車道の一部供用開始など社会基盤が整うことで、観光客の大幅増を見込み、目標年間観光入り込み客数を200万人(1日当たり約5,000人)と設定します。

目標人口33,000人に1日当たり約5,000人を足して、目標ふれあい交流人口は、38,000人と設定します。

観光入り込み客数の推移と見通し

(資料:市観光振興課)



3 土地利用

土地利用の基本方針は、①大野の特性を生かした土地利用、②自然と共生する土地利用、③安全で快適な土地利用の3点とします。